令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立御幣島小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区　　名	西淀川
学　校　名	大阪市立御幣島小学校
学 校 長 名	日野善文

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立御幣島小学校では、第６学年　89名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立御幣島小学校の結果概要

本年度の平均正答率は、次の通りであった。国語科、算数科ともに、大阪市平均、全国平均を上回っていた。
【国語】６３％（大阪市５９％、全国６０.９％）
【算数】５９％（大阪市５６％、全国５６.４％）
国語科は、大阪市平均を4ポイント、全国平均を2.1ポイント、算数科は、大阪市平均を3ポイント、全国平均を2.6ポイント上回っていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
領域別の平均正答率では、昨年度は下回っていた領域が３つもあったが、今年度はすべての領域で、全国・大阪市平均ともに上回っていた。その中でも[書くこと]については大阪市6.9ポイント、全国5.4ポイントも上回っており、日々の学習で育成されてきていると感じる。大阪市の学校支援事業を活用した漢字検定にも取り組み、更なる言語力の定着を図っていく。

［算数］
各領域別の平均正答率では、「図形」「データの活用」の領域において、全国、大阪市平均ともに上回っている。「変化と関係」の領域では、大阪市のみ平均を上回っている。しかし、他の領域については、全国・大阪市平均ともに下回っていた。特に「測定」の領域では、大阪市平均を3,5ポイント、全国平均を3.9ポイント下回っていた。問題を図式化し、その関係性を把握したり、自分の考えを表現したりする学習を取り入れる授業づくりを行うことが大切である。

質問調査より

児童質問紙では、[自分には、よいところがあると思いますか]についての肯定的な回答は、全国平均4.1ポイント、大阪市平均3.7ポイント上回っていた。様々な学校行事や児童会活動での高学年としての自覚を持ったがんばりが光っており、自尊感情が育まれていると考える。また、[学校に行くのは楽しいと思いますか]について最も肯定的な回答は全国平均を12.2ポイント、大阪市平均を12.3ポイント、[いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか]については全国平均を6.5ポイント、大阪市平均を3.5ポイント上回っていた。
また、[学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか]については、大阪市平均.全国平均とほぼ変わらない数値であった。各教科において、授業に話し合い活動を取り入れているが、今まで以上に積極的に取り入れていき、子ども同士の学びあいを大切にしていく。

今後の取組（アクションプラン）

今年度は、昨年度に引き続き、算数科を研究教科とし、スクールアドバイザーの指導助言を受けながら授業研究を進めていき、若手教員を中心とした授業力の向上と授業改善に取り組んでいる。また、発達段階や個別の理解度に応じた習熟度別・少人数指導などに取り組み、授業形態を工夫する。また、算数科だけでなく他教科でも「話し合い活動」に力を入れ、課題改善がみられてきたペアやグループでの協同的な学習のよりよい進め方をさらに検討し、「主体的・対話的で深い学びの推進」していき、自ら学び考える児童の育成に努める。ICT機器の積極的な活用も進めることで、児童にとってよりわかりやすい授業をめざしていく。
また、学校が楽しいと感じている児童が多いので、学校はあるものではなく、つくるものとして、自分から自分の学校をつくる意識づくりを進めていく。